



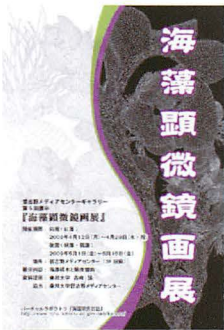
会員のページ



★海藻顕微鏡画展（東邦大学）

今年3月、東邦大学大学院理学研究科教授、吉崎 誠先生が定年退職されました。2月28日に開催された記念シンポジウムには150人が出席し、続く記念パーティも100人を超す盛大なものとなりました。その会場で展示され、出席者を驚嘆させたのが、吉崎先生が長年、線描されてきたさまざまな海藻（淡水藻も数点）の美しい解剖図です。

おそらくは1日だけの展示ではもったいないとの声があったのでしょうか。4月13日から5月25日まで東邦大学習志野メディアセンターギャラリーにて「海藻顕微鏡画展」が開かれました（左上：ポスター、右上：ロゴ、下：展示会場の様子）。全国への巡回展などが期待されます。（北山太樹）



★海藻標本のご寄贈に感謝（科博、TNS）

国立科学博物館大型藻類標本室（TNS、つくば市）では、海藻押し葉標本の寄贈を歓迎しております（詳細は55巻2号本欄）。今年1月に下記の方から貴重な標本を寄贈していただきましたので、この場をお借りして御礼申し上げます。

松澤圭資先生（高知県室戸市）より、高知県産海藻標本286点。松澤先生は海洋無脊椎動物特に甲殻十脚類を研究されてこられました。昭和33～45年頃にかけて室戸半島の海藻を採集調査し、それらの同定を故 梅崎 勇先生（当時京大農学部）に依頼されたものです。（北山太樹）

★海藻押し葉ラミネートづくり

中央水産研究所横須賀庁舎の一般公開の際に、海藻押し葉ラミネートを是非やってみよう、企画提案したのは2006年春のことでした。海藻押し葉ラミネートは、台紙に海藻標本、魚介類の写真やイラストを切り取った紙片および製作者本人の写真を貼り付けてラミネートします。このため、海藻の標本を準備するのが大変でした。初めて本格的な標本作りに挑戦！しかし、ヒジキ等の肉厚の海藻はカビが生え失敗、アオサや紅藻は色鮮やかに仕上がりましたが、種類・量とも少ない状況でした。そこで、水産総合研究センターの北海道から石垣島までの各水産研究所から海藻標本を譲り受け、また、魚介類の切り抜き紙片も本部から譲り受けました。この場をお借りして感謝申し上げます。



当日（7月29日）は、突然の大雨かと思えば、快晴になるなど不安定な天候にも拘わらず、「海藻押し葉ラミネート」って何をするんだろうという興味を持った親子がコーナーに集まると、途端に作業場は満席状態になりました。最初にポラロイドカメラで製作者の写真をとります。案外照れる子どもが多いですが、変わったポーズを取る子もいます。本人の写真と様々な

海藻や魚介類の紙片をA4版の台紙に貼りつけます。子どもたちの作品はととてもすばらしく驚かされました。親御さんやおじいさん、おばあさんと一緒に世界でたった1枚の作品ができあがり、ぎっとみなさんに喜んでいただけたと思います。アンケートでも「ラミネートが楽しかった、またやりたい。」という子どもからの感想があり、とても励みとなりました。皆さんの心に夏休みの思い出として残れば幸いです。

（柴田玲奈・梅澤かがり・寺脇利信）

